

桃園第二小学校改築推進委員会 要 点 記 録

第 5 回

開 催 日 時		令和7年1月27日(木) 午後6時30分～8時13分
開 催 場 所		桃園第二小学校
出席者	委 員	須藤直樹、飯村悟、大月啓介、荒山幸次郎、佐藤清一郎、 太田晃子、三浦絵莉子、矢島寛典、石井よしみ、 古賀野さやか、小田嶋歩、中村笑子、山田研二、計良真美、 渡邊健治、藤永益次 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係、子ども教育施設整備係
会 議 次 第		【議事】 1 桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について

第5回 桃園第二小学校改築推進委員会 会 議 要 旨

1 開 会

委員長

これより第5回桃園第二小学校改築推進委員会を開会する。本日、傍聴希望者がいる。傍聴についてこれを許可してよろしいか。

—異議なし—

委員長

傍聴者は傍聴券の裏に記述されている注意事項を守り、議事の進行を妨げないようお願いする。

2 議 事

議事(1)桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について

委員長

議事に入る。「桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について」、事務局の説明を求める。

子ども教育施設課長

基本設計の検討においては、これまで校庭は人工芝舗装の仕様としていたが、令和6年中野区議会第3回定例会において、「桃園第二小学校の改築に際し、環境と地域の要望を踏まえた校庭の仕様を求める陳情」が採択され、校庭を土舗装とする場合の検討を行うこととなった。このため、補正予算を措置し、土舗装の場合の資料作成のために設計委託の契約変更を行った。

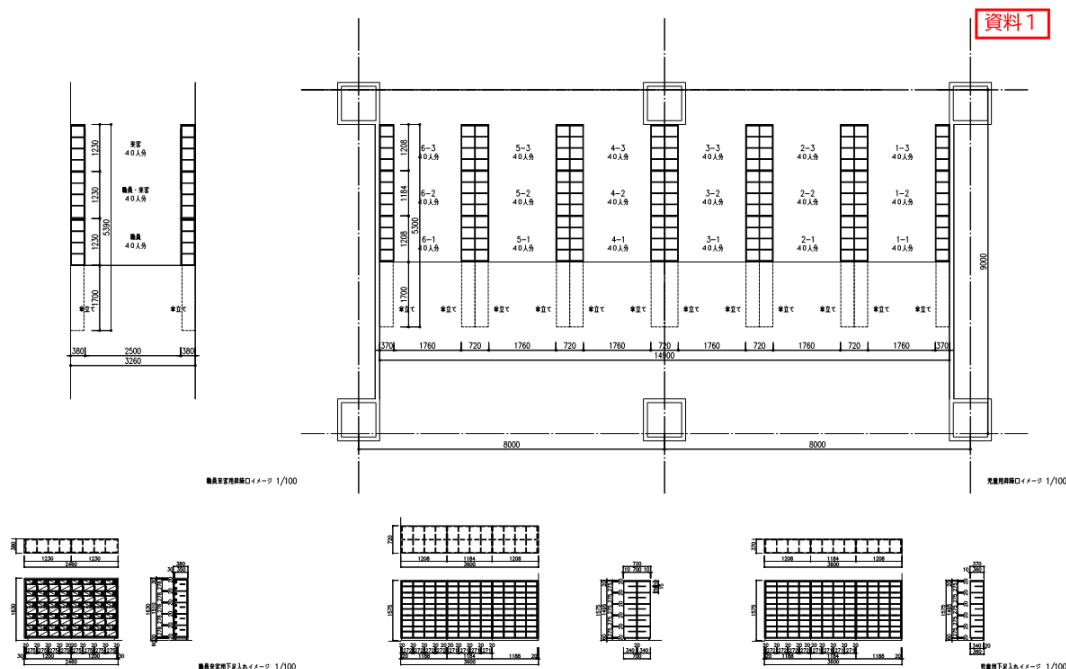
本日は、校庭が土舗装の場合の案を複数用意したので、委員の方々からご意見いただきたい。案は、考え得る8つのパターンを示したので、このパターンから2つ程度に絞っていただきたいと考えている。案を絞り込んでいただいたら、改築推進委員会のご意見を参考に、内容をブラッシュアップし、1か月から1か月半後に、ブラッシュアップした案を委員の方へ提示するので、各委員が所属して

いる町会やPTAなどの団体内でも確認いただきたい。4月中頃に次回の改築推進委員会を開催し、ブラッシュアップ案について意見をいただき、更に案を深度化する。4月中旬から5月頃に土舗装の場合の案を1つに絞り込めた場合は、9月から10月に基本設計をまとめられる見込みである。1つに絞り込む作業が遅れる場合は、その分基本設計も遅れることとなる。

本日の資料の説明をする。資料1は、土舗装の場合に必要な下駄箱スペースである。6学年分の児童用でおよそ2教室分と、教職員と来庁者分で0.4コマ分の合計2.4コマ分の広さが必要となる。

昇降口 必要スペース

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日



資料2は、考え得る8種類の条件パターンを示したものである。全ての案に共通することだが、1階部分に下駄箱スペースが入るため、何かしらスペースが圧迫されるか、教室の入替えが必要になる。

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日

資料2

条件比較表

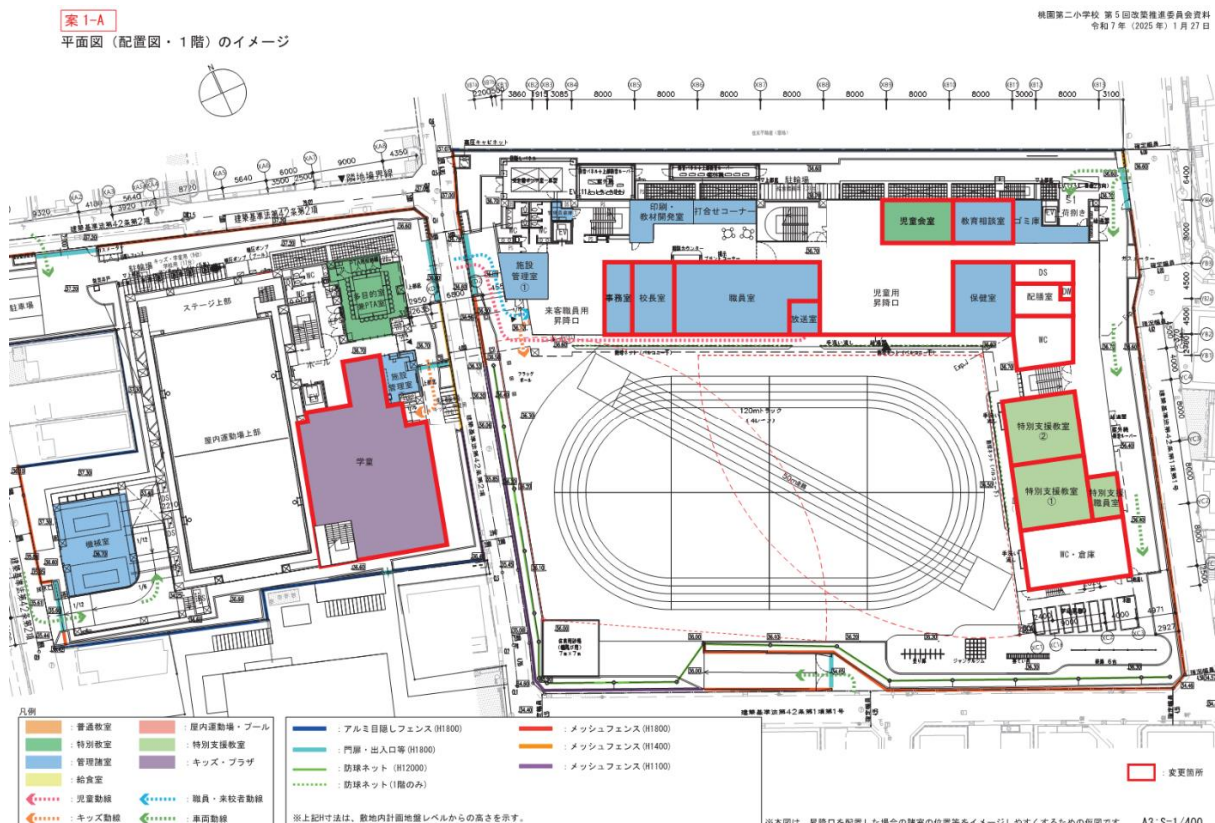
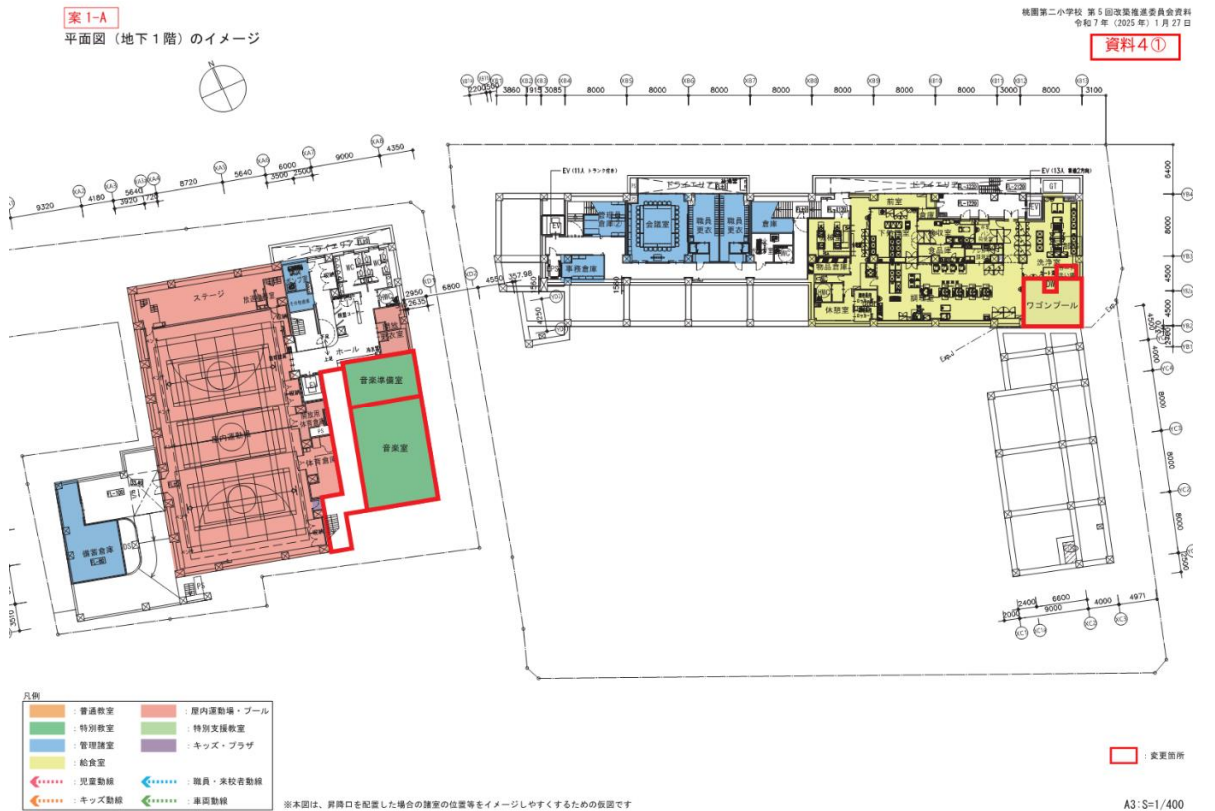
	案1			案2			案3	案4
	キッズ・プラザ、学童エリア調整			学校機能を削除または縮小			校庭縮小	校舎範囲拡張
条件	A	B	C	A	B	C	トラック、遊具の範囲を縮小し、東校舎の範囲を拡張	地下階を拡張し、1階校舎内通路（ピロティ）の廃止
	キッズ・プラザを削除	学童クラブを削除	キッズ・プラザ＋学童を削除または縮小	教育相談室、児童会室、特別支援教室を縮小	少人数指導教室を削除	多目的室兼PTA室を削除または地下配置		

資料3の各階平面図は、校庭が人工芝舗装の平面図に、昇降口必要スペースを重ねたものである。人工芝舗装の校舎がどのような案だったかを、おさらいとして示したものである。

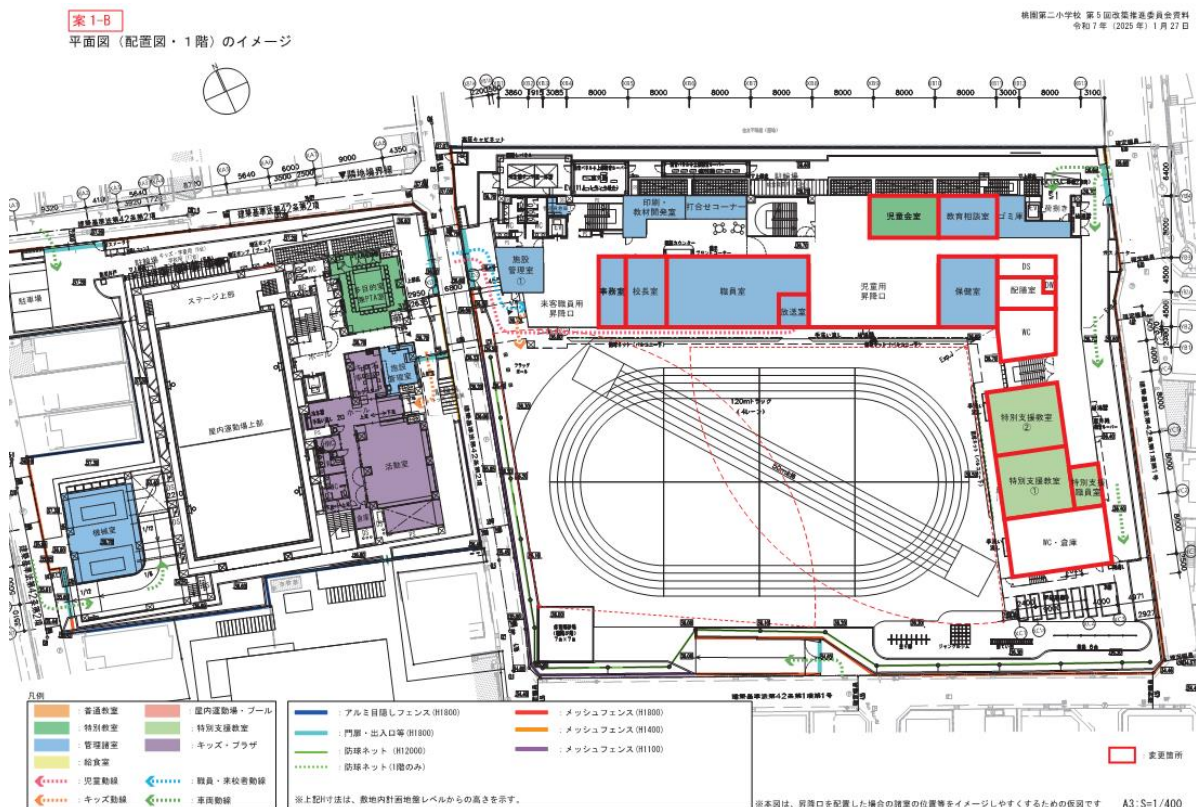
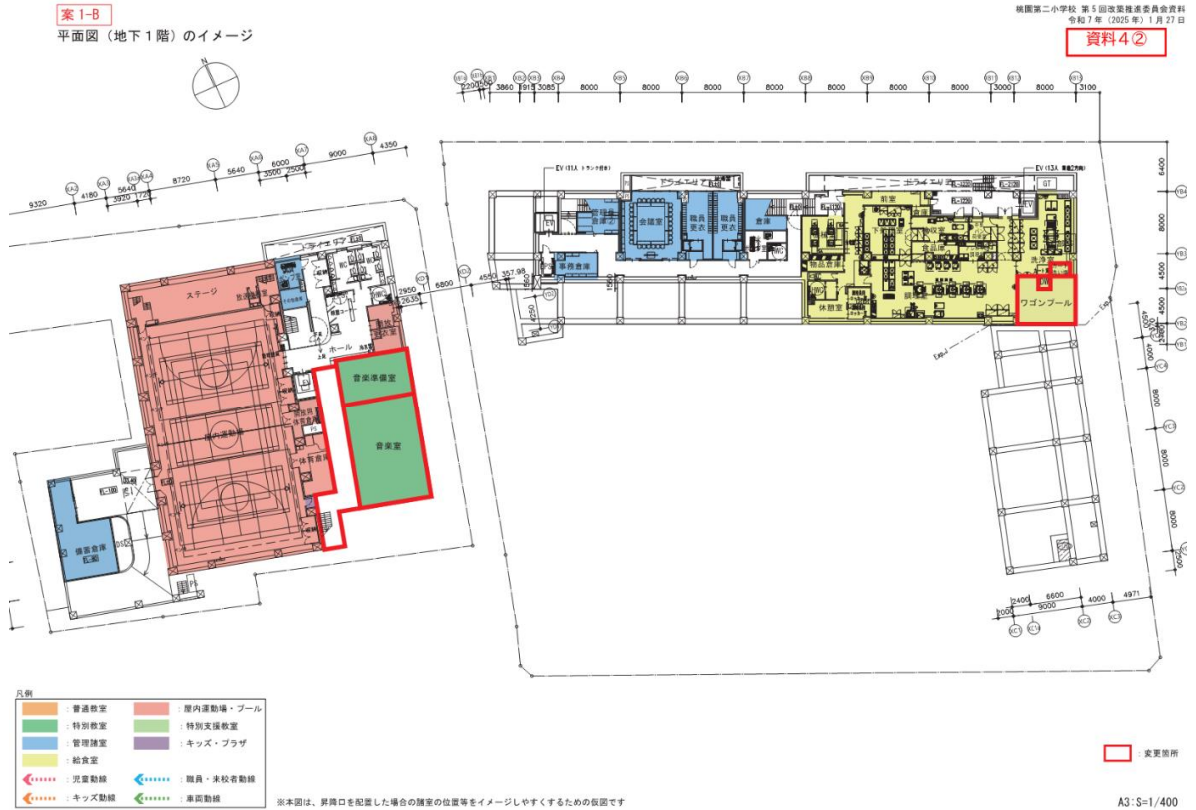
資料2の各案の平面図が資料4である。この図面は、委員の方々がイメージしやすくするために作成

した仮の図で、今後の精査で諸室の位置に変更が生じる可能性がある。赤いラインで囲んでいる部分が人工芝舗装の場合の図面から変更がある部分である。

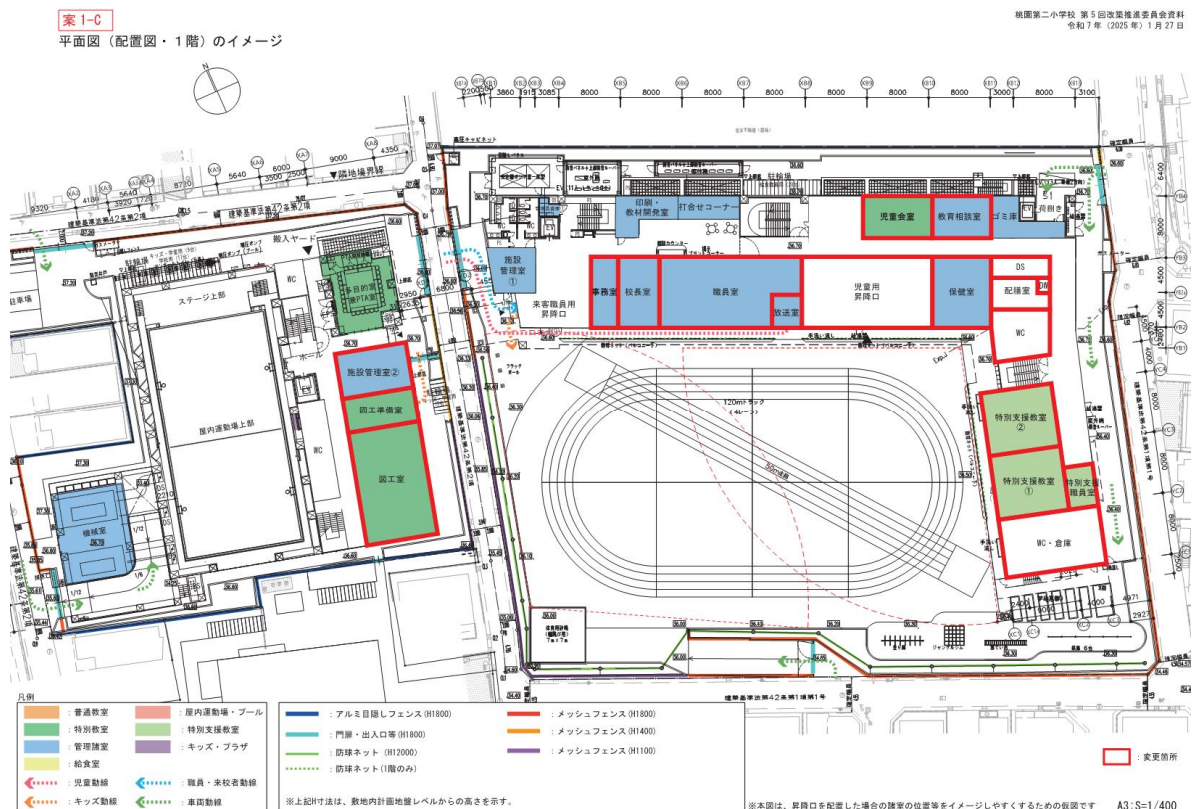
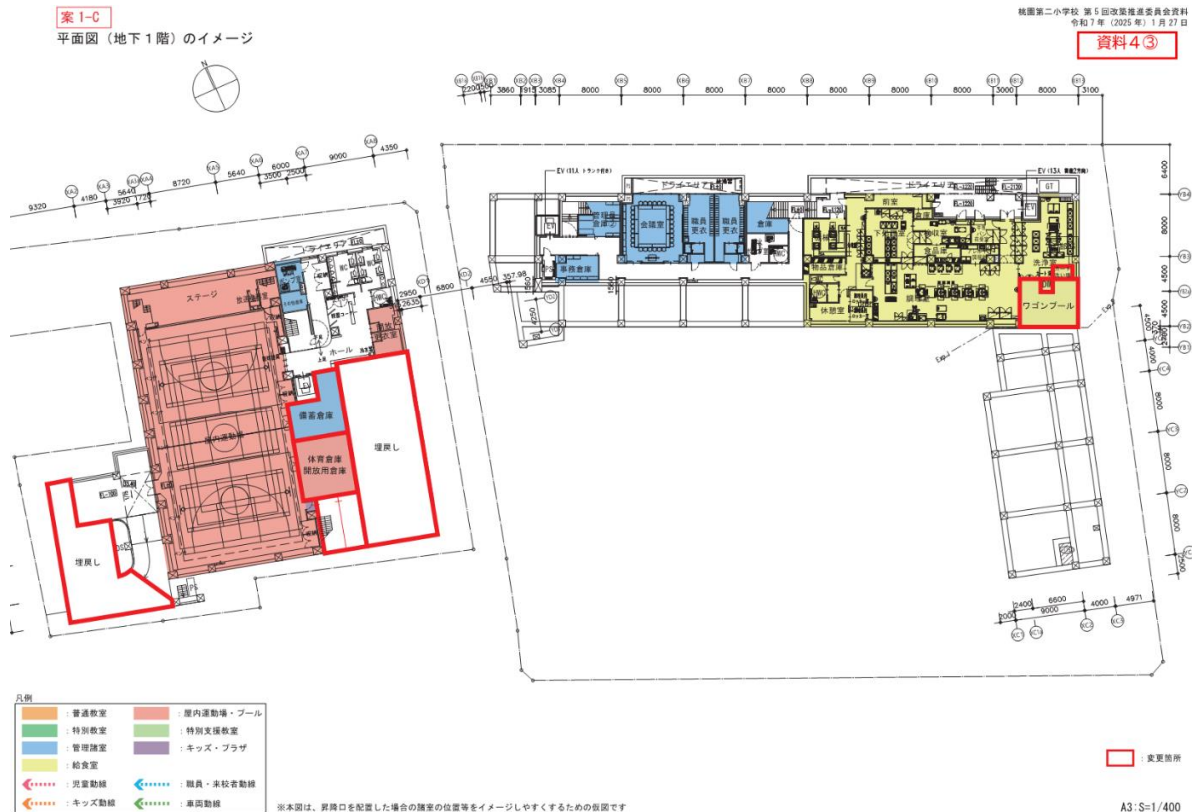
まず、案1-Aは、キッズ・プラザを削除する案である。西校舎地下1階は学童クラブに代えて音楽室を配置している。1階はキッズ・プラザに代えて、学童クラブを配置している。東校舎の1階は全体的に配置を変えている。



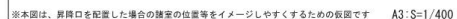
案1-Bは、学童クラブを削除するパターンである。西校舎の1階の学童クラブを削除して、キッズ・プラザを配置している。なお、案1-A及び案1-Bともに、地下1階に音楽室を配置しているが、音楽室の防音を考慮して地下1階に配置したものである。



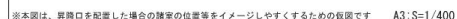
案1-Cはキッズ・プラザ、学童クラブを両方とも削除するパターンで、西校舎地下階の学童クラブがなくなり、1階のキッズ・プラザも削除している。以上が、キッズ・プラザや学童クラブを調整する案である。



桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年(2025年)1月27日



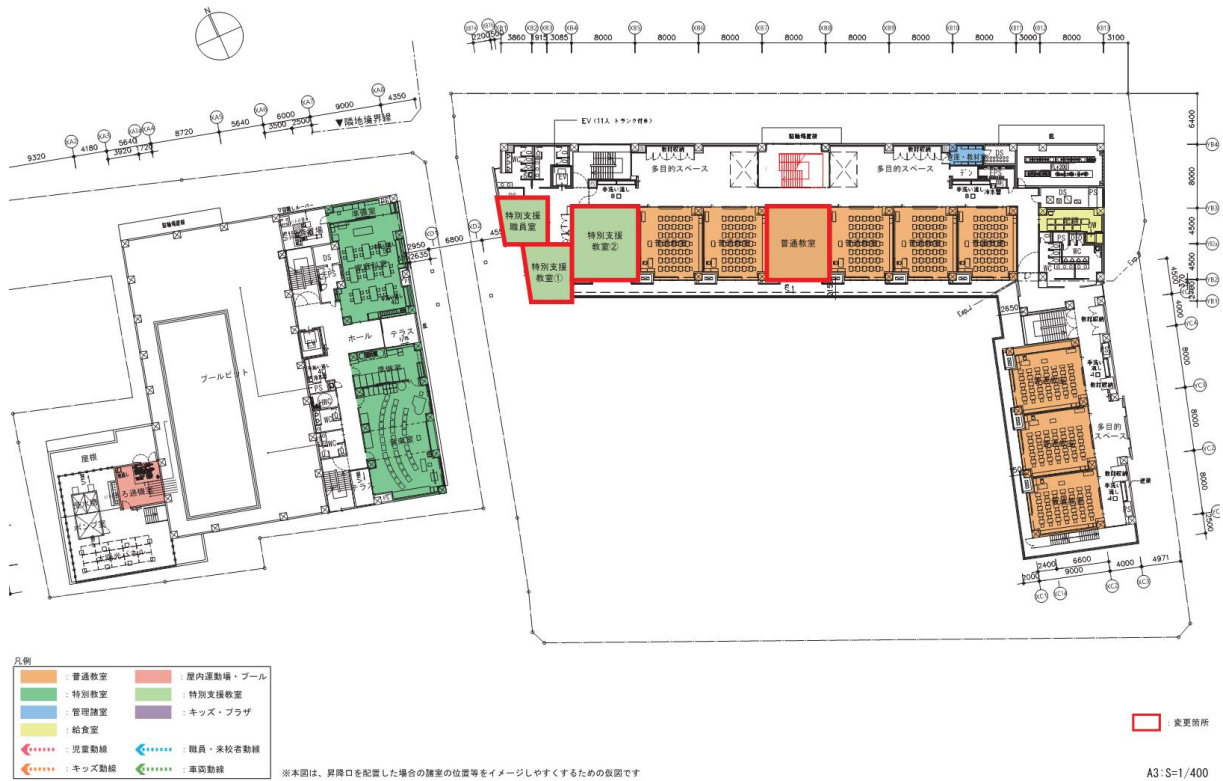
桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年(2025年)1月27日



案 2-B

平面図（2 階）のイメージ

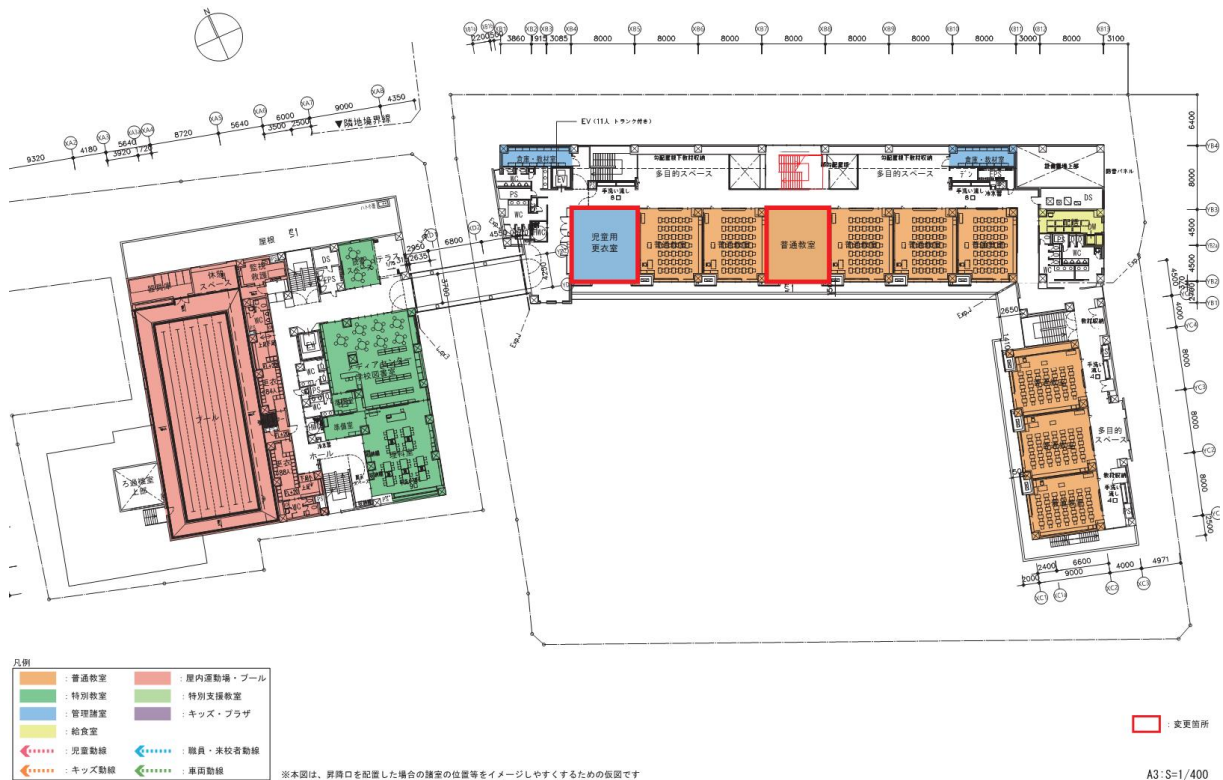
桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日



案 2-B

平面図（3 階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日



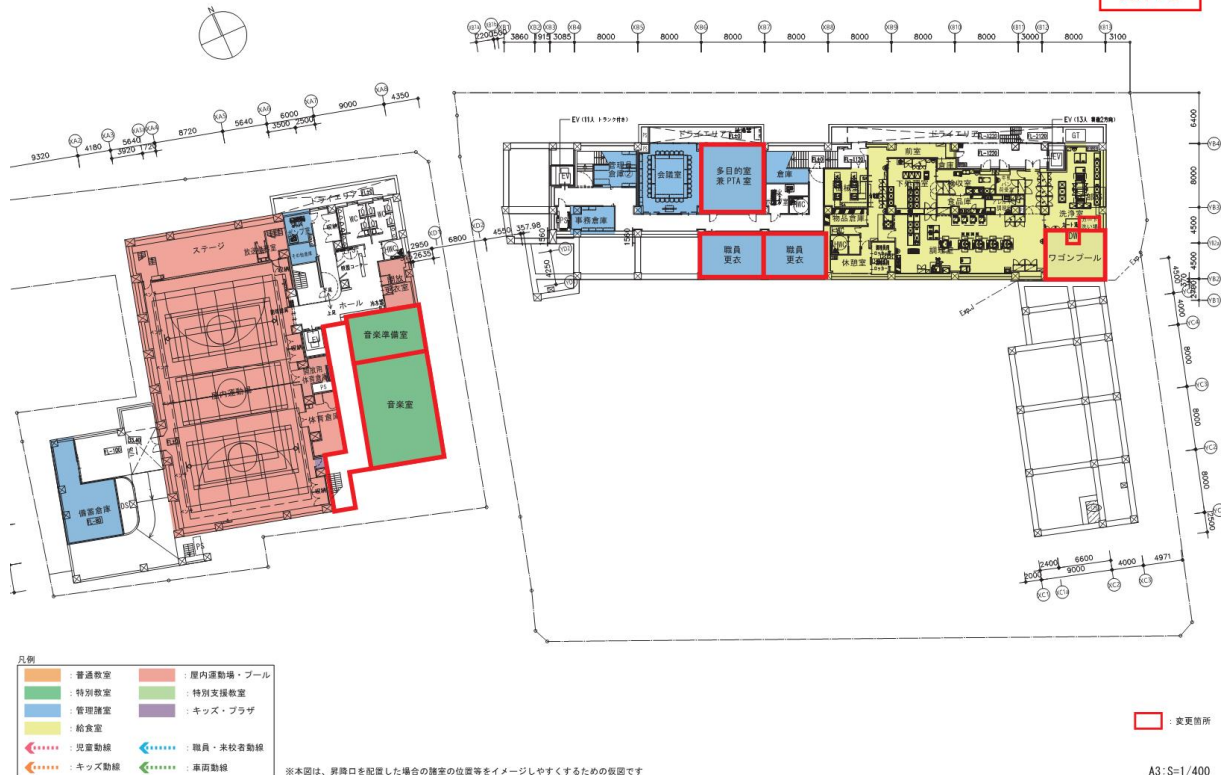
案2-Cは、PTA室と多目的室を東校舎の地下に移動している。音楽室を西校舎の地下1階に、児童クラブを1階に移し、キッズ・プラザを移動させている。

案2-C

平面図（地下1階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日

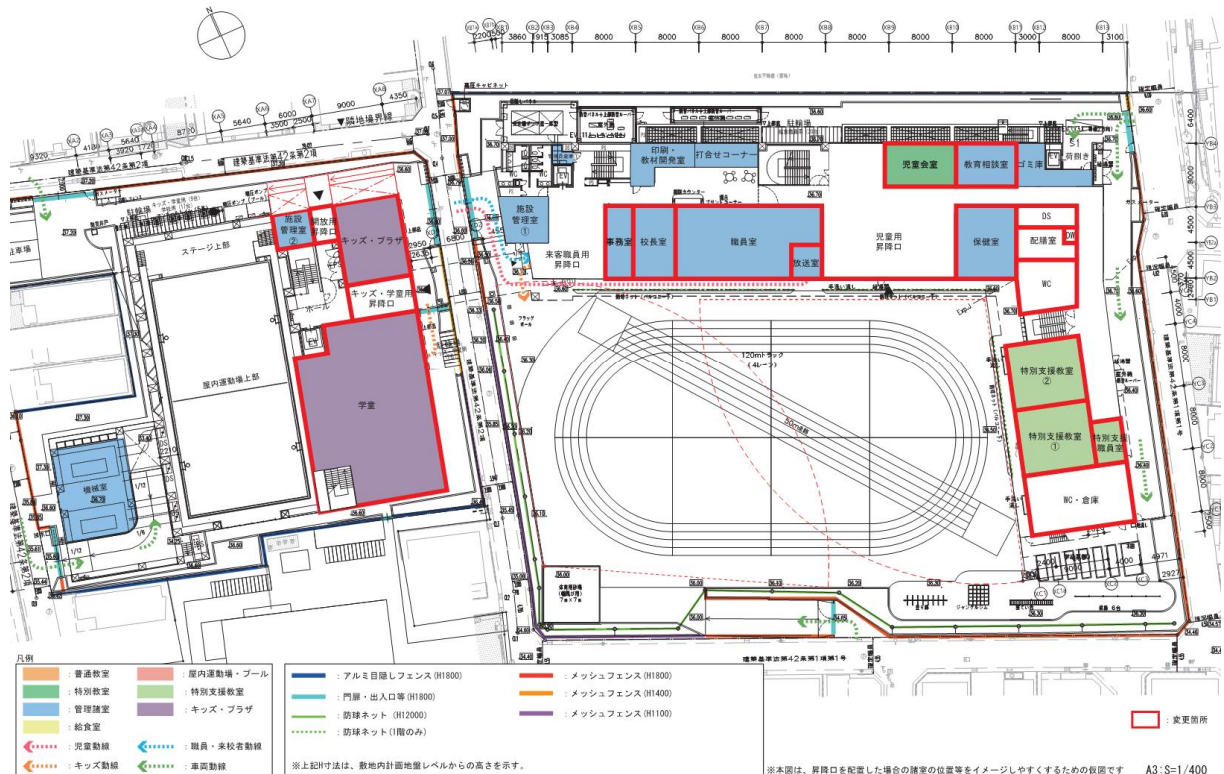
資料4⑥



案2-C

平面図（配置図・1階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日

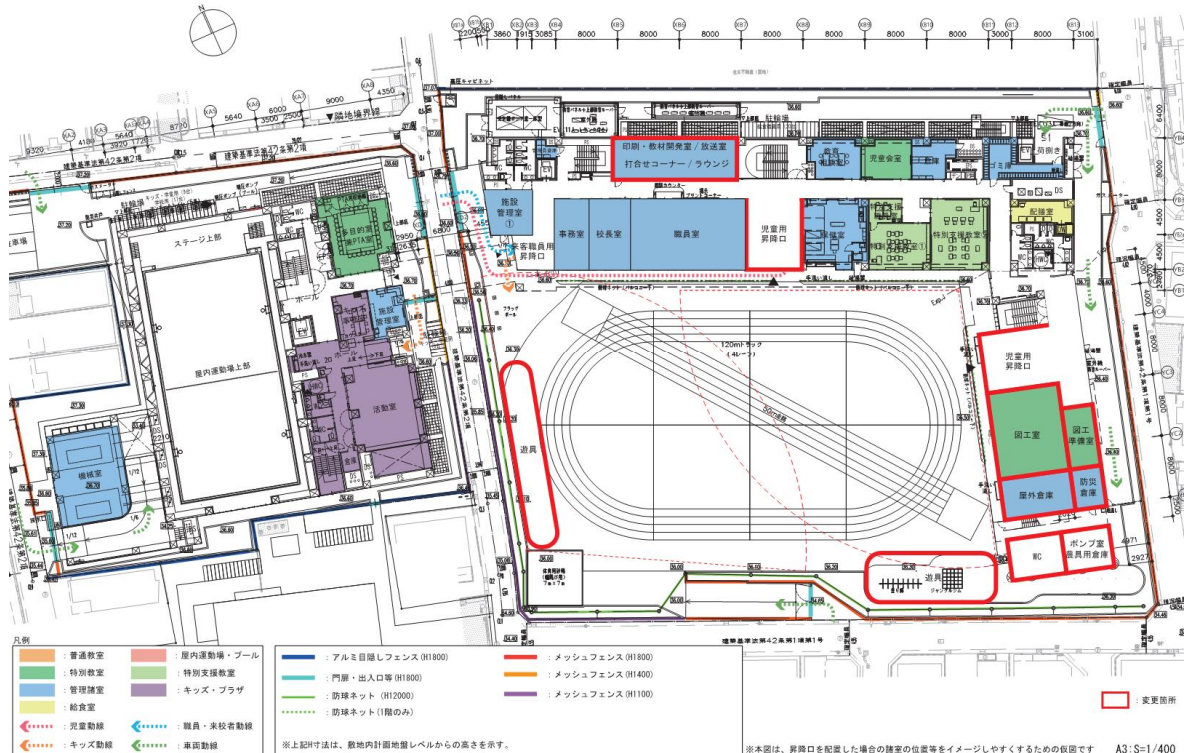


案3は、校庭を縮小するパターンで、西校舎に変更はない。東校舎の1階の児童用昇降口を2か所に配置する分、南東に校舎が膨らむため、校庭が少し狭くなり、トラックが小さくなる。

案3

平面図（配置図・1階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日



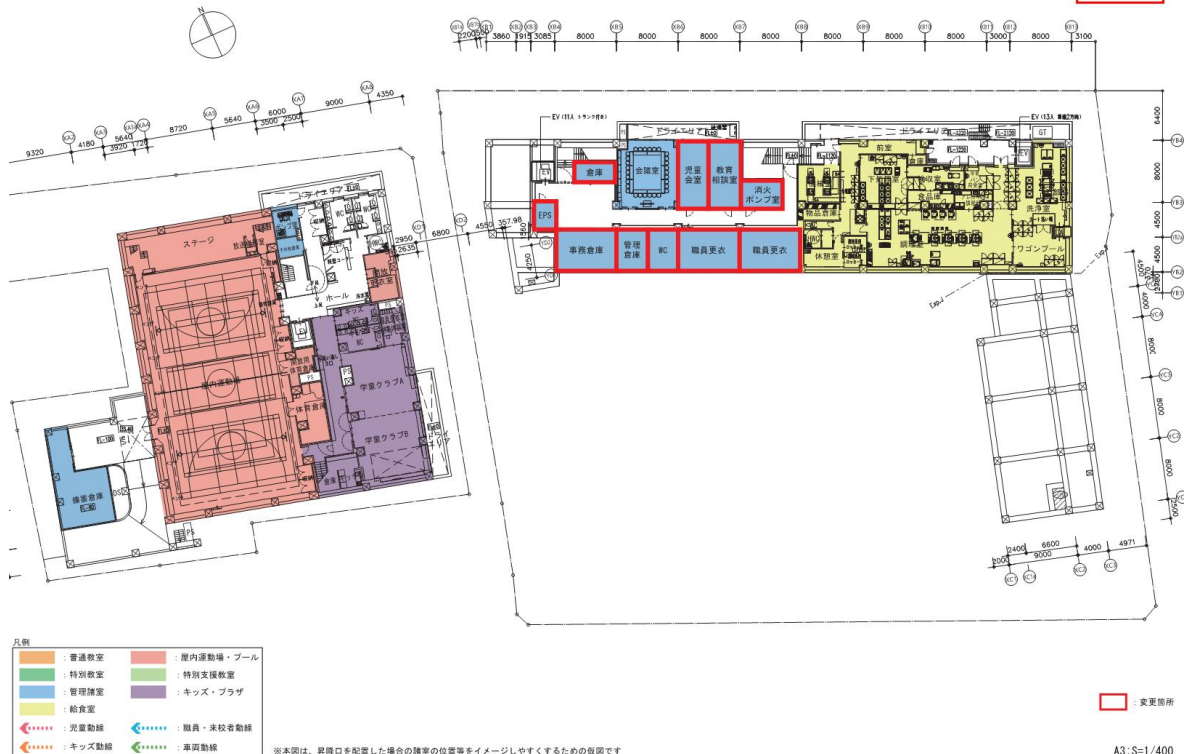
案4は、地下を拡張するパターンで、西校舎は変更していない。ただ、地下の掘り込みが多くなるため、工事期間が延び、工費もかかる。なお、児童会室や教育相談室は、教育委員から子どもたちの場所を地下にするのは望ましくないという意見があったため、1階に移動する予定である。案の説明は以上である。

案4

平面図（地下1階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日

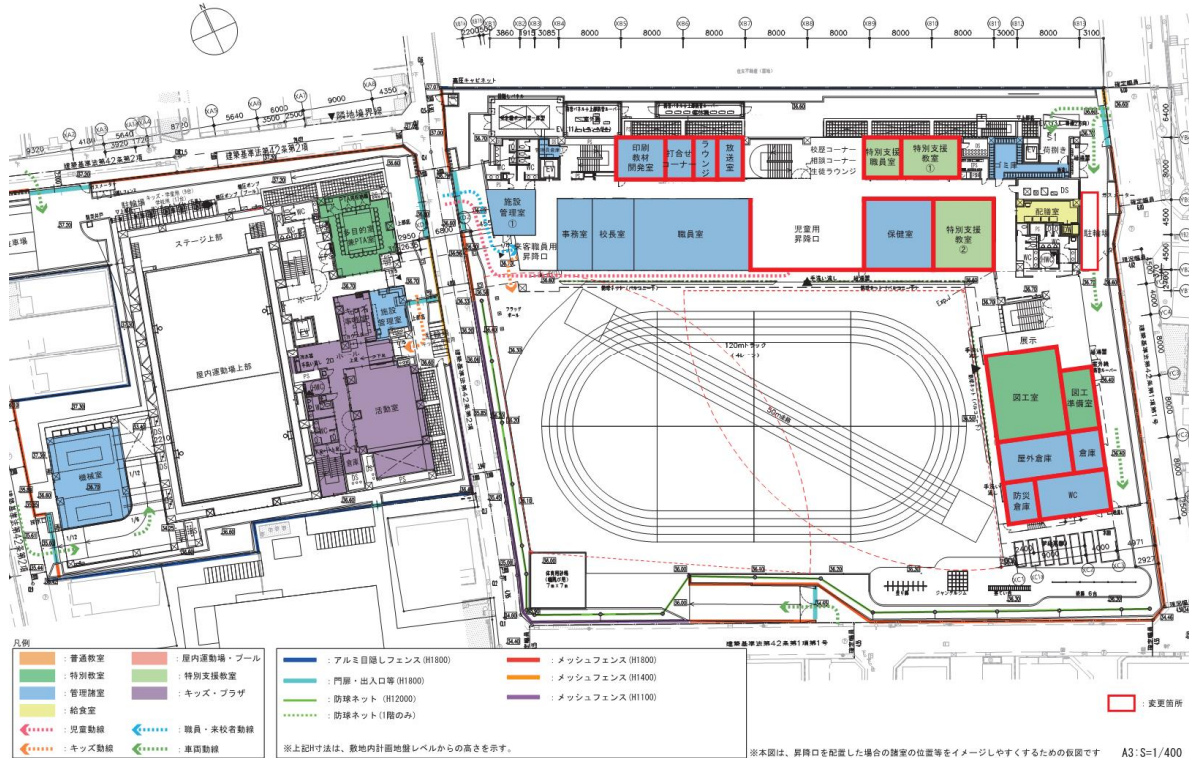
資料4⑧



案4

平面図（配置図・1階）のイメージ

桃園第二小学校 第5回改築推進委員会資料
令和7年（2025年）1月27日



委員長

それでは、事務局から示された8案について意見を聞きたいが、最初に学校機能を縮小削除する案2と、校庭を狭くする案3について意見を伺いたい。

委員

私は案1から案3はなしで、案4一択だと思っている。既存の想定された機能にしわ寄せがいくと何かしら不具合が出てくると思われるので、それを避けられる案4がよい。

委員長

案1はキッズ・プラザ、学童クラブを外に出すことになるが、代替施設はどうするかという意見は、現段階ではなしにして、学校機能として考えていただきたい。

委員

普通教室は、なぜ18室確保しているのか。

事務局(子ども教育施設課)

人口推計を基に出している。桃園第二小学校は、現在12学級だが、今後最大14学級になると見込んでおり、少人数指導教室なども含め、各学年1教室分の予備を考えている。

委員

キッズ・プラザや学童クラブを併設するのは保護者の方たちも求めているところなので、案1はないと考える。案4なら今までのものを確保できるが、子どもの使う場を地下にするのは望ましくなく、印刷室も職員室に近いところがいいので、普通教室に余裕があるのであれば、そこを利用できるのではないかと。案3は、やはり校庭が縮小するのは子どもにとっては望ましくないのと、案2のAかB、もしくは案4で検討していくのがよいのではないかと。また、昇降口は2か所に分けた方が、避難のしやすさや安全面からもよいと思うが設計上可能かどうかとも聞きたい。

子ども教育施設課長

昇降口を2か所に分けると校舎が膨らみ、校庭が圧迫される可能性があるため、難しいかもしれないが、検討する。

委員長

案3は、校庭が縮小されるが、賛成の方はいるか。

委員

賛成というわけではないが、子どもにとって120m必要なのかは疑問なので、100mトラックにするなど、案3も完全に否定はできないのではないか。

委員長

校庭はなるべく広いほうがよいのではないかというのが個人的な意見である。120m走れるかは分からないが、子どもの体力も向上するかもしれないし、連合運動会でも桃園第二小のトラックより長い距離を走る。

委員

ほかの小学校で、校庭が人工芝舗装のところは、何mトラックが基準なのか。

事務局(子ども教育施設課)

鷺の杜小は110mトラックである。学校の地形や、土地の条件によってサイズが変わる。桃園第二小の場合、トラックだけでなく校庭そのものの面積が小さくなるのが課題である。

委員

今より校庭が狭くなるのはかわいそうである。地下を拡張することで必要なスペースを賄えるのであれば、そのほうがよい。

委員長

人工芝舗装の設計でも、校庭面積は現状より狭くなる。教室を大きくしなければいけないので、現状より校舎が張り出す。

委員

校庭が小さくなるのは、あまり賛同できない。教育の場合なので、我慢するのが子どもであってはいけない。子どもを優先に考えた配置がよいと思うので、もし何かを差し引きしなければならないのであれば、保護者としてはPTA室が地下に行ったほうがよいと考えるのではないか。

委員長

では案3はなしでよろしいか。

—異議なし—

では案3は外すこととする。案1、2、4が残ったがどうか。教室は多くあったほうがよいと考えるが、案2に関してはどうか。

委員

案2すべてなくすのではなく、予備教室を流用するのもありではないか。案1の学童クラブやキッズ・プラザを削除というのは、仕組みとしてあり得るのか。

子ども教育施設課長

所管課に事前に確認したところ、やはり学童クラブは設置してほしいとのことである。キッズ・プラザについては、学校との相談にもなるが、教室等の共用ができるのであれば活動室を設けないこともあり得る。実際に今、計画を進めている北原小は、敷地がもっと狭いので、キッズ・プラザの活動室はなく、多目的室を活用することを想定している。

委員長

文園児童館は乳幼児を主とするとのことだが、桃園第二小の建替えの動向によって学童クラブの代替施設として検討できるのではないか。

委員

PTAのアンケートで、保護者から学校への要望として、学校から自宅へ帰らずに遊べるようにしてほしいという要望が出ていた。行き帰りの安全面も考えると学童クラブもキッズ・プラザも学校内にあったほうがよいと考えている。

委員

文園児童館はすごく近いが、そこに行くまでの間に揉め事が起きることがある。学童に行く途中なので、管轄がどこかの判断も難しい。他校で、学童クラブとキッズ・プラザが入っている学校は、放課後帰宅せずにランドセルを置いたまま遊べるし、キッズスペースや体育館など広いスペースで子ども

たちが自由に遊べた。学童クラブは、低学年の子たちが行くので、保護者としては、怪我や事故などが起きにくい安全な中で、子どもたちを預けたいのではないか。学童クラブの子とキッズ・プラザに来た子が一緒に遊べるというメリットもある。

委員

学校機能の削除はなるべくは避けたい。案2-Cの話で出ていたPTA室を地下に移動してやりくりができたり、教育活動に大きな影響を及ぼさない部屋の流用ができたりするのであれば、案2は残しておいていいのではないか。

委員

案2-Cの場合、地下エリアを増やすとなると、工期は延びるのか。子どもたちも新校舎を楽しみにしているので、部屋の調整で工期が計画どおりいくのであれば、その方がよいと思うが。

事務局(施設課)

案2-Cだと、地下の職員更衣と書いている部分の工事が増え、どうしても地上より工期がかかる。案4ではおおむね2か月程度の工期がかかるが、案2-Cでは地下が増える量としては、その半分ぐらいなので、1か月程度の工事の期間はかかると想定されるが、最終的にどのくらいの工期がかかるかは、今後検討が必要である。

委員長

多目的室とPTA室は分けてほしいと事務局には言い続けている。PTA室にはロッカーがあるが、ロッカーに収まり切らないものもあるだろう。そうすると、医療救護などの際に、お互いが迷惑になってしまう。災害時のトリアージが子どもたちのその後の教育活動にも影響が及ぶ心配もあるので、やはり多目的室は教室とは別で体育館の入口付近に残してほしい。

委員

多目的室とPTA室をつなげるのは使い勝手が悪い。狭くてもいいので、分けるべきだ。

委員長

会議は別の部屋でやるとして、PTAのものをしまう部屋として設けたらいいのではないか。

委員

中野東中のPTA室も、狭いがロッカーと印刷機だけ置いてあり、会議は別の場所でやっているようだ。多目的室だと、他団体も使用することになりパソコンなどの管理も難しい。

委員

PTA室の印刷機は故障のため廃棄する予定なので、印刷機の場所はいなくなる。PTA室には、ロッカーや保護者団体の物などが置いてあるが、今の半分ぐらいの大きさでもそれ程支障は出ないと思う。ただパソコンには個人情報などもあるので、安全上、多目的室と分けた方がよい。

委員

案のうち、部屋の削除をするものは省きたい。削除が必要ないもののうち、2-Aは昇降口が分かれていてよいと思うが、案2-Aの縮小というのはどの程度の縮小なのか。

子ども教育施設課長

案2-Aは、特別支援教室が狭くなってしまっているが、区としては、特別支援教育に力を入れていくということもあり、厳しいと考えている。教室数は今の推計では問題ないが、少人数教室も様々な授業で活用したり、将来児童数が増加した際の余剰として使ったりすることも考えられるので、縮小は厳しいと思っている。

委員長

近くの白桜小と谷戸小は児童数の増加により教室がいっぱいで、谷戸は校庭が大分狭くなってしまった。新しい校舎が建った場合、教育委員会がどこまで認めるかはわからないが、指定校変更により桃園第二小に集まってくる可能性もあるのではないか。その場合、もしかしたら一時的にでも3クラス編成になる可能性もある。教室が不足してプレハブ校舎を建てるのはやめてほしいので、なるべく教室は残したい。

委員

案1-Aで、キッズ・プラザのスペースを削除し、教室を流用して賄うのは、運用が非常に大変だと

思う。

子ども教育施設課長

キッズ・プラザの機能がなくなるというわけではなく、他の部屋で運用することになるので、やはり学校との管理区分の問題は発生してくるだろう。

委員

キッズ・プラザと学童クラブが併設されると、運営も一体化するのか。

子ども教育施設課長

そうである。

委員長

可能であれば両方とも学校にあるとよいが、それが厳しいのであれば、キッズ・プラザを設けて、学童クラブは文園児童館に設置するのがよいと思う。

委員

学童クラブは低学年が利用するが、やはり小さいときは離れた学童クラブに歩いていくのは心配なので学校内にあるとよい。キッズ・プラザを利用するのは3、4年が多く、1人で歩いていっても心配ないので、学童クラブが学校内にあるほうがよいのではないかと。ただし、両方学校内にあるのがベストなので、それらを削除する案は避けたい。キッズ・プラザはおもちゃや漫画もあるので、学校内では難しいのではないかと。

委員長

では、案1は削除してよいか。

—異議なし—

では、案1と案3は削除し、案2と案4が残った。案2の中でもCを残し、AとBは削除でよろしいか。

—異議なし—

では、案2-Cと案4を残す。ただし要望として、PTA室と多目的室は分け、多目的室は体育館のほうに残してほしい。

子ども教育施設課長

補足だが、設計者が人工芝舗装の案で懸念していたのは、学童クラブが地下にあることだった。案2-Cのメリットは、キッズ・プラザの部屋が若干狭いが、キッズ・プラザと学童クラブを併設して、明るい1階部分に配置していることだ。多目的室も1階に必要という意見もあるので、PTA室とも調整する。また案4については、我々も学校機能に一番支障がないと考えていた。その2つについて、改築推進委員会の意見をふまえ改めて検討していきたい。

委員長

校庭は人工芝舗装の案がなくなったわけではなく、土舗装の案と比較して、どちらがいいか地域の皆さんから意見を出してほしいということなので、両方の案が出た段階で改めて検討させていただきたい。なお、人工芝に関して、子どもたちの意見は教育委員会に届いているか。

学校再編・地域連携担当課長

当課で学校再編の検証を今年度行っており、その中で、児童生徒、保護者、教員、地域の方にアンケートをとっている。統合校の新校舎の校庭は人工芝になっており、土舗装と人工芝舗装の両方の校庭を経験した児童等に対し、一足制になってよかったか、人工芝になって活動しやすくなったかということを知っているため、今後結果がまとまったらお示しする。

委員長

最終的には教育委員会が決めることなので、ここで決めたからといって、必ずしもそれが通るわけではないが、教育委員会としても地域の要望は最大限生かしたいということである。意見が大きく分かれることなく、皆さん合意のうえで意見をまとめたいと考えている。

委員長

代替校舎への移転の時期についても説明をお願いしたい。

学校再編・地域連携担当課長

代替校舎の供用開始は、今のところは予定どおり令和8年度からとなっている。

委員長

代替校舎期間が長くなるのであれば、もう少し現校舎を使うことも考えられる。代替校舎への移転後に現校舎の取り壊しが先に延びるということがあれば、校庭や体育館だけでも、地域活動等で使いたいという要望も出るかもしれない。代替校舎も、改修工事後に長期間使わない状態にしていると、使用する際にまた手直しが必要になる可能性もあるので、校舎は予定通り令和8年度から移転するのがよいと思っている。ただ代替校舎期間が長くなる場合、他校へ指定校変更する児童が増えるかもしれないという懸念もあるだろう。

委員

令和8年度からの予定が変わる場合というのは、どういう状況のときか。

学校再編・地域連携担当課長

工期が大きく遅れる場合が考えられる。子どもたちが代替校舎に長期間通うことが想定される場合は検討が必要だろう。最終決定は新校舎の整備スケジュールが決まり次第ということになる。

委員

皆この校舎には思い入れがあり、来年度がこの校舎を使用する最後の年であれば、そのために教育活動の中で何ができるかを考えているところなので、それがもう1年先送りということになるとかなり混乱する。引っ越し準備や物品整理を計画的に進めていかないといけないし、通学路も学校だけではなく地域の方の意見を聞きながら決めていかないといけない。子どものことを第一に考えて、混乱しないように進めてほしい。

学校再編・地域連携担当課長

学校に影響がないようなるべく早めに判断したい。代替校舎の工事は令和7年度中には終わる予定なので、長期間新校舎の整備スケジュールが決まらなければ、令和8年度に移ることとなる。

委員長

最終的には、ここで案がまとまるかだろう。これからより詳細な図面が出てきた段階で、どういう形の学校がいいのかを議論し、早くまとまれば、移転時期の判断もされるだろう。

校庭が人工芝舗装の場合の校舎の形で、土やクレーコートの校庭にして一足制にはできないか。土舗装の校庭でも掃除が楽であれば一足制も可能と考えるが。

子ども教育施設課長

区としては、土舗装の場合は、今示している仕様でいきたいと考えている。

委員

校庭にある桜の木は桃園第二小の象徴として残っている木なので、それがどうなるのか気になっている保護者がたくさんいる。改築で切ってしまうのだったら、再利用して看板につくり替えるなど素材自体を残せないかという声もある。また、桃園第二小の文化の桃の木もどうするのか。

子ども教育施設課長

樹木については樹木医に判断してもらっている。ただ、ソメイヨシノは寿命が短く、切らざるを得ないことも多い。クスノキやヒマラヤ杉も含め、樹木については次回説明したい。

委員長

次回は4月に開催予定である。本日の推進委員会はこれをもって終了する。